

第2回東日本大震災に関する活動助成 活動報告書

団体名	神戸大学 学生震災救援隊
活動テーマ	岩手県内の仮設住宅で住民の健康向上と傾聴を目的とする“足湯”などの活動



東日本大震災により甚大な被害のあった岩手県沿岸部の仮設住宅では、コミュニティが形成途上であり、仮設住宅入居者の孤立を防ぎ、孤独死を防止する為のコミュニティ支援が求められていた。

そこで、仮設住宅の集会所・談話室において、足湯サービスや「まけないぞう」というタオルを使った手芸作りを教えるなどの企画をとおして、仮設住宅入居者同士がふれあい、顔の見える関係作りを図り、仮設住宅におけるコミュニティ形成を図った（2月、4月、8月、9月の4回、各回6日～10日間実施）。

活動には毎回1日あたり1ヶ所の仮設住宅で20名程度の参加者を得ることができ「こんなに人としゃべったのは久しぶり」「皆さんが来るから、集会所に出てくる」などの感想を言って下さる方々もいた。同時に足湯や手芸を通じた傾聴行動を行い、その内容を仮設住宅自治会や、他のボランティア団体など対処できる団体にニーズを橋渡しして解決を図った。

大槌町では和野第5仮設住宅の地域支援員と、陸前高田市においては高田町の上和野町内会および高田高校仮設住宅、モビリア仮設住宅と連携して活動を実施した。健康に関する不安等については、その後も地元団体が見守り活動を続けてくれるなどの効果があった。また、周辺地域住民と仮設住宅住民の双方が参加できる足湯サービスや「まけないぞう」、カフェ活動を、陸前高田市の和野会館という地域の集会所で実施し、周辺の5つの仮設住宅および地域社会から参加者を30名程度得ることができた。

その結果、地域社会と仮設住宅の交流を実現することができた。課題としては、あまり私たちの活動に来られない男性への働きかけが挙げられる。また今後の生活再建への不安や、経済的な悩みについては、ただ受け止めて聞くしかないという現実があり、ボランティアとしての限界を感じることも多くあった。